

まなびばならは

～学生自らの提案が地方創生に、檜葉町を第二のふるさとに～

member

明治大学政治経済学部
野澤ゼミ

西岡 祐汰
川亦 壮祐
久我 匠
佐々木 望有
行川 由美乃

私たちの問題意識

- 私たちは都市政策ゼミとして、普段からフィールドワークを通して学びを深めている
- その中で、原発被災地でいち早く復興が始まった檜葉町をフィールドに選定した
- 2022年5月から、現地調査以外に200時間以上かけて檜葉町への取り組みを行った
- 現地フィールドワークでは、現地の様々な場所を視察し、関係各所にヒアリングを行った後、町長を含め関係者の方々に提案の中間報告を行った

私たちの問題意識

大学での学びか、就活か？

- ・ 大学で学んだことを実践する機会がないまま就活を始めなければならない
- ⇒ 大学生の貴重な時間を割いて行う企業のインターンシップは、企業への理解は深められる。だが、それだけでよいのか？

就活のインターンシップも、大学のフィールドワークも、いわゆる「お客様対応」

- ⇒ 体験や提案だけで終わってしまうため、関わりが深まらない
- ⇒ 「提案を行動に移し、実現する＝実践する」ことが重要なのではないか？

大学での学びを実践できる場はある？

- ⇒ 大学で学んだことを活かしたり、実践することができる場がないのではないか？

檜葉町の問題意識

檜葉町「関わってくれる人も、担い手も少ない」

- ・ 若者目線かつ長期的にまちづくりを提案・実践する担い手の不足
- ・ 将来の移住・定住先として選ばれる町になる
- ・ 多くの大学生をフィールドワークで受け入れているが、同じ組織・人に何度も同じような内容について協力依頼することになり、学生間で情報が引き継がれない



檜葉町に大学での学びを実践する学生が継続的に訪れる仕組みを作る必要があるのではないか

楡葉町について

■福島県浜通り地域

■福島第一原発から20km、第二原発から10kmに位置し、震災により全町避難を経験

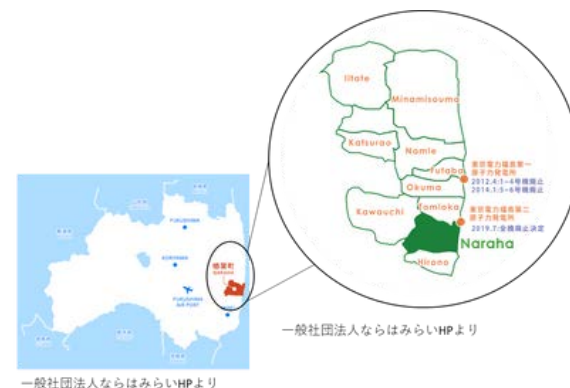
■2011年3月12日に全町避難、2015年9月5日に帰還開始、
震災以前は人口8011人だったが、2022年現在は人口4245人

■楡葉町第3次復興計画で、「高等教育研究機関の誘致」「教育旅行の誘致による国内外学生との交流促進」を掲げる

■まちづくり会社の「(一般社団法人)ならはみらい」と連携し、楡葉町でのフィールドスタディを通じ、全国から多数の学生を受け入れている

■全町避難を経て、復興まちづくりを行っているため、新規政策を取り入れる余地が多分にある

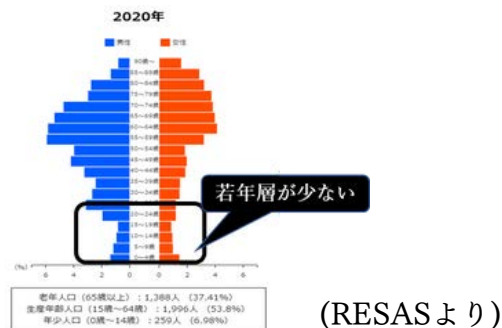
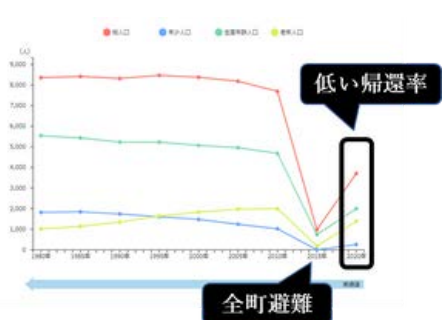
→新しいものをどんどん取り込む柔軟性がある街



楡葉町の課題

①極端に減少した人口

- 東日本大震災による福島第一原子力発電所事故を受け、全町避難を経験し、2015年に帰町が始まったものの、2/3がいまだ町内に戻ってこない
- 避難先での生活の方が長くなった10代～20代の若い世代も多い

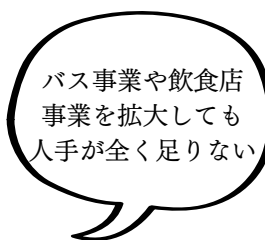


②地域の担い手不足

- 多額の復興税(令和3年3月までで約10億円)が交付されているが、それを用いた事業を推進するための職員が不足
- 若者が極めて少ないため、店舗等ではアルバイトなどの担い手が集められず、閉店時間が早い



旅行会社社長



一般社団法人
ならはみらい職員



(ヒアリング調査より)

大学生のフィールドワーク・インターンシップのニーズと課題

【アンケート結果】

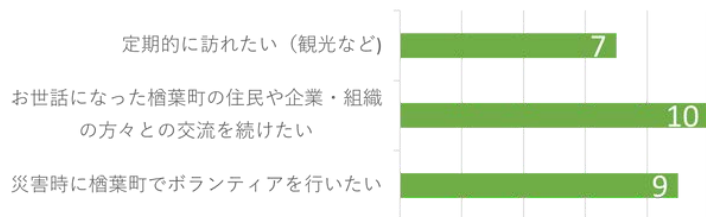
対象：檜葉町でフィールドワークを行った学生13名・
Google Formsで実施
期間：2022年9月4日～9月16日

Q.もしあなたが来年度も檜葉町のインターンシップに参加できると仮定した場合、参加したいと考えますか？

定期的に訪れたい（観光など）	回答人数
今年度と同様の内容を継続して行えるのであれば参加したい	8人
今年度とは違ったテーマや活動内容であれば参加したい	3人
内容関係なく参加したい	2人
参加したくない	0人

全員が
来年も参加したい
と回答

Q.当インターンシップを通じて、檜葉町との関係性をどのような形で継続していきたいですか？(上位3つ)



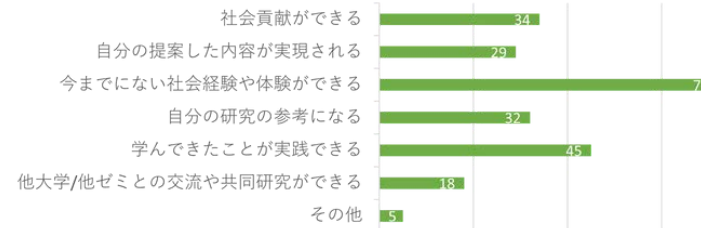
多数が、町内の人々と
継続して交流したい
と回答

⇒継続的に檜葉町と関わることで
できる仕組みが必要

【アンケート結果】

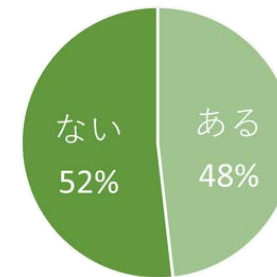
対象：全国の大学生112名・Google Formsで実施
期間：2022年9月4日～9月16日

Q.どのようなインターンシップがあれば参加したいですか？(一部抜粋)



今までにない体験や
学びの実践をしたい
学生が多い

Q.ゼミ活動や大学の講義で学んだことを実践する機会や場はありますか？



半数以上の学生が
学びを実践する機会や場
がない

⇒大学での学びを実践する
場が必要

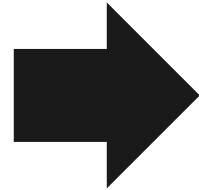
私たちの提案

フィールドワークや地域インターンに参加した大学生のうち、継続的に檜葉町と関わりたいリピーターや、新規事業の立ち上げ・推進をトライしてみたいという意欲的な学生が檜葉町と関わり合いができる場として「まなびばならは」を提案！

まなびばならはの役割

学生が檜葉町と
関わり続けるための
基盤づくり

檜葉町で学び、
実践する学生同士を
つなぐ



まちの活性化
愛着人口創出

提案内容
の改良

提案

実践

継続した参画による好循環

新規事業
の創出

次年度以降の
継続FW生に
引継ぎ

檜葉町や地元
組織/住民等
との連携

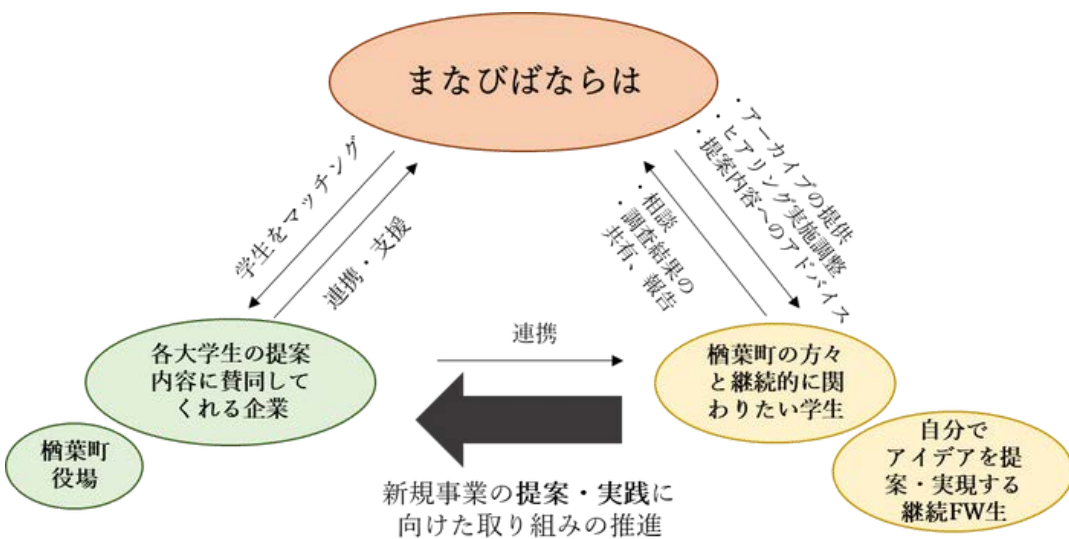
※愛着人口：継続的に檜葉町に関わり、交流を続けたい人

※継続FW生：檜葉町で継続的にフィールドワークを行う学生のこと

提案詳細

①学生が檜葉町と関わり続けるための基盤づくり

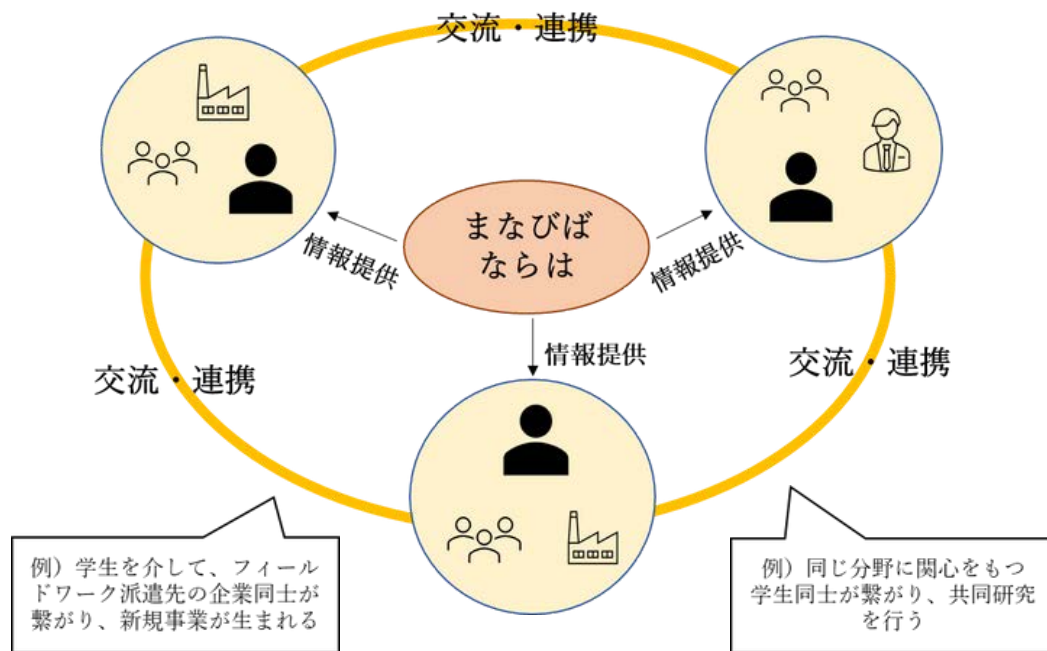
- 檜葉町で行われた調査報告、ヒアリング内容のアーカイブ化
- 継続FW生の専門や提案内容を踏まえて、関係組織/企業/住民とつなぐ
- 継続FW生のメンターとして相談に応じる



- ⇒ 学生が檜葉町と継続して関わるための基盤をつくることで、檜葉町で新たに政策や事業を提案し、実現化したい学生の支援を行う
- ⇒ 町役場・一般社団法人ならはみらいの後ろ盾のある組織が支援を行うことで、学生と町民が密に連携することができる
- ⇒ アーカイブ化することで、地域との連携や起案が過去の遺産の上に形成され、提案内容の質が向上
- ⇒ この仕組みが、**学生×地方創生の新モデル**になる！

②檜葉町で学び、実践する学生同士をつなぐ

- SNSやWebサイト等を活用した参加者コミュニティの形成
- 檜葉町で現在活動している団体、学生の情報提供
- 「まなびばならは」運営メンバーとして受け入れ



- ⇒ 町内で実施中・実施予定の活動を紹介し、交流や連携を促すことで、檜葉町内での研究や新規事業に対する相乗効果が生まれる
- ⇒ また、学生を介して、学生⇔他の企業/町民、企業⇔企業、町民⇔町民が繋がることできる

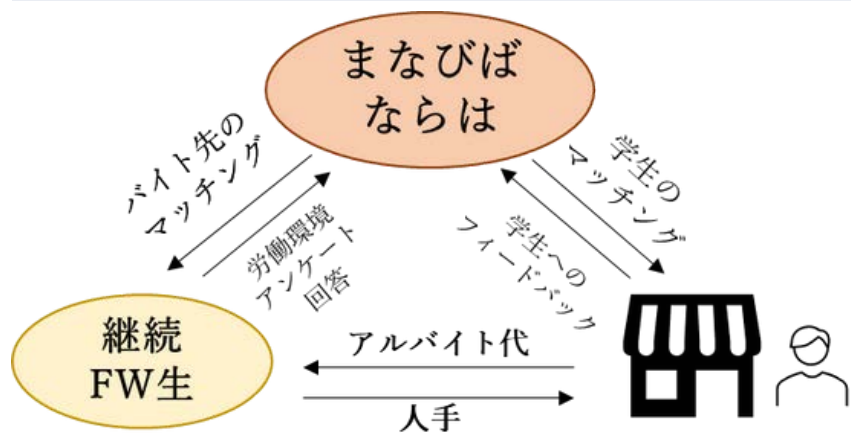
初動アクション：現地で不便にならないような生活基盤づくり

■ 檜葉町に継続FW生が滞在する際に生じる現地滞在の費用(宿泊代など)の負担を最小限に抑える仕組みづくり

⇒ 檜葉町内の店舗の人手不足解消や、宿泊施設・公共施設の稼働率上昇など、地域課題の解決に寄与

プロジェクト①

現地調査のスキマ時間でできるアルバイトを学生に紹介・マッチング

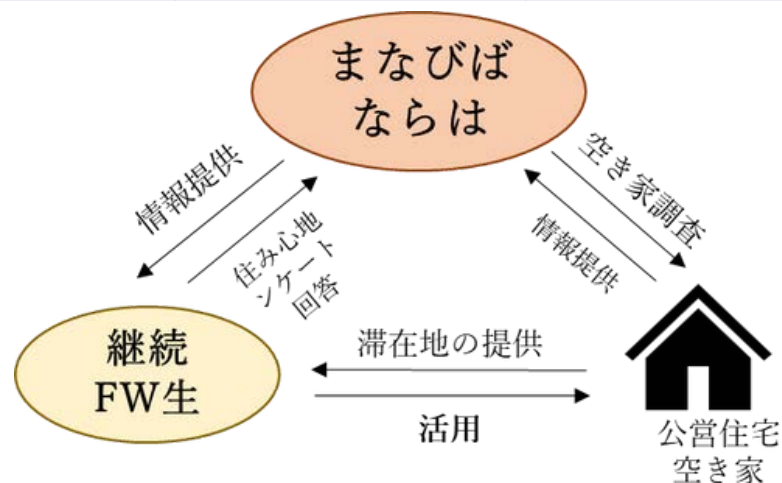


檜葉町(ここなら笑店街)の求人情報
(参考：福島県の最低賃金 858円)



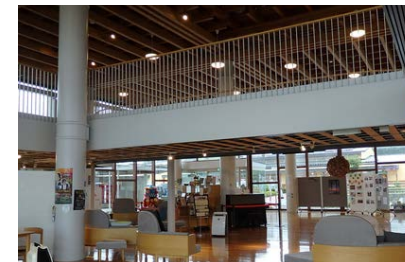
プロジェクト②

宿泊・滞在・活動拠点として檜葉町内の施設(公営住宅・空き家)の有効活用



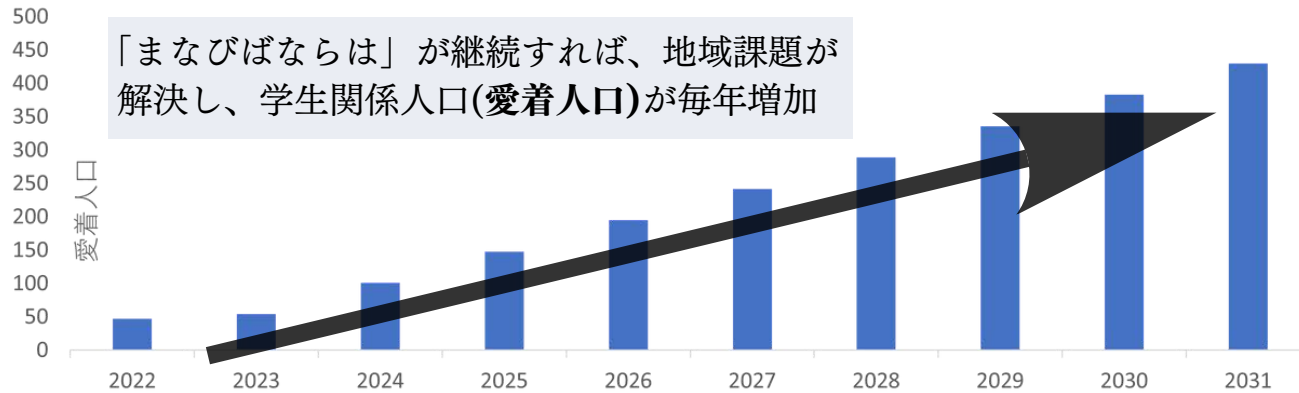
活動拠点の例

CODOU(移住者の交流拠点) ならはCANvas(住民の交流館)



将来展望

将来愛着人口推計



檜葉町へフィールドワークに来た学生
61人/年 (2022年の実績値)
 ×
 町内の住民/企業/団体と交流を続けたい人の割合
76.9% (アンケート結果より)
 ×
 継続年数
10年
 継続FW生関係人口 (愛着人口)
430人 (2020年檜葉町の人口の10%に相当)

	短期目標	中期目標	長期目標
まなびばならはの目標	<ul style="list-style-type: none"> □ 明治大学内のゼミを対象に継続FWの参加募集・実施 □ アルバイト受け入れ先の調査 □ アルバイトマッチングの仕組み作り □ 檜葉町での調査・報告書のアーカイブ化 □ 宿泊施設の準備 	<ul style="list-style-type: none"> □ 全国の大学を対象に継続FWへの参加募集・実施 □ 学生と檜葉町が協力し、宿泊場所や交通手段などの地域課題を学生の提案・実践により解決 □ プログラム参加者、希望者へ「まなびばならは」の運営引き継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> □ 様々な大学が集う研究交流拠点「ならはサテライト」の構築 (檜葉町第3次復興計画より) □ 「まなびばならは」の運営ノウハウを活かした他地域への展開
地方創生としての目標	<ul style="list-style-type: none"> □ 学生アルバイトによる担い手不足の解消 □ 町内スーパー等の営業時間の延長 □ 学生と檜葉町の関係性構築 	<ul style="list-style-type: none"> □ 住民ニーズの高い商業店舗の増加 □ 学生起業家の育成・輩出 □ 古民家の改装による空き家問題の解消 □ 学生の提案・実践により、新たな交通手段の導入 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学生が楽しんでチャレンジできる町 □ 日本一学生が訪れる町 □ 日本一学生にやさしい町